

平成24年度第1回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成24年5月23日(水)
13時40分～15時15分
場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

1 開 会

2 会議成立の報告（事務局）

委員26名中16名が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。
（協議会規約第6条第2項）

3 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会会長

4 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

（1）しなの鉄道活性化協議会規約の一部改正について

事務局から「資料1」を説明。

（質問・意見等なし）

原案のとおり可決。

（2）平成23年度しなの鉄道活性化協議会事業報告について

（3）平成23年度しなの鉄道活性化協議会決算について

事務局から「資料2」、「資料3」を一括説明。

監査報告：監査委員による出納監査結果について報告。

<議 長>

- ・2月の第3回活性化協議会でもご報告をしておりますが、軽井沢・小諸間の増便事業についてはその効果について評価をしております。結果として、効果はある程度上がっているということでございます。軽井沢・小諸間の輸送密度についてしなの鉄道が調査を行ったところ、この区間の輸送密度の伸び率としなの鉄道全区間の伸び率を比較したところ、軽井沢・小諸間の伸び率の方が高いという結果が出ておりますので、一定の効果が出ていたのかと思います。一方で、増便と共に接続改善といったこともやっているのですが、下り最終新幹線との接続確保のために昨年一本追加をしたのですが、これについては乗車率という点では問題があるものの、全体としては効果が出ているということが調査結果によっても明らかになっているということと、ここにも記載のとおり9月に利用者アンケート

をしておりますけれども、利便性が高まったであるとか、もっと継続してやって欲しいといった評価も出ていることから、これは2月に報告したとおりですが、比較的实施したことによる効果があったのではないかと見ております。こういった点を踏まえてどうでしょうか。今年は国庫補助金が無くなるという大変厳しい状況もあるのですが、こういったことも踏まえて事業計画の中でご議論をいただきたいと思います。

事業報告・決算の内容については、ご承認をいただいたということではよろしいでしょうか。

(質問・意見等なし)

報告のとおり一括して承認。

(4) 平成24年度しなの鉄道活性化協議会事業計画(案)について

(5) 平成24年度しなの鉄道活性化協議会予算(案)について

事務局から「資料4」、「資料5」を一括説明。

(質疑・意見等)

ア 8Pの5) 情報提供の高度化⑥しなの鉄道ホームページの充実、というところでございますけれども、列車の遅れとか事故等会ったときに、ホームページを開いてもそれが載っていないのが現状だと思います。折角ホームページの充実ということでございますから、ホームページだけでなく、携帯サイトの方でもそのような情報を出していただければ、利用者が情報を得られると思いますので、そんな点も考慮に入れていただければと思います。

<事務局>

・現在当社のホームページでは、運行情報につきましては30分以上の遅れが発生した場合に情報を掲載しております。本年度ホームページの充実という表現をしておりますが、全面リニューアルを行う作業をしているところでございます。運行情報も携帯サイトを含めてより使いやすい、より利用してもらえるようにしていきたいと考えております。

イ 事業計画の中で3) 企画列車の運行等②企画・割引切符の発売、とございますけれども、乗り放題で2,000円というフリーきっぷを良く利用させていただいているのですが、JRにはトクトクきっぷという長野・松本間利用でお得になる切符がございます。こんなようなものを、長野・上田間ですとか、小諸・軽井沢間ですとか都市間を区切るようなトクトクきっぷのようなものをご計画いただけると大変ありがたいかなと思えました。今日も乗車させてもらって、かなり上田まで乗ってくる方がいらっしゃると思います。新幹線に乗りましても、上田までの利

用が多いかなと感じているのですが、時間的には（新幹線の）13分と（比較して）40何分と掛ってしまうのですが、しなの鉄道になってから運賃が高いと非常に皆さん感じているようです。特に上田・長野間はJRですと570円乗車券でいける訳ですが、750円と。これを松本まで利用する場合にあたっては、通常1,110円かかる場所、トクトクきっぷというものがある、自動販売機でも買えるということがありますので、是非こういった企画をご検討いただければと思います。

<議 長>

- ・大変貴重なご意見を出していただいたのですが、また後ほどご説明いたしますが、昨年度1千万人を切って、何とかしなければならぬということで、チームを作って検討する中で、そういった切符類についても少し割安感が出る、あるいは乗りたいというインセンティブが働くような形のものを作って行こうということで、いろいろ検討しておりますけれども、いただいた意見なども参考にして、そういったバリエーションを考えていきたいと思っております。また是非お知恵を拝借できればと思います。

ウ JR 区間の乗継割引が無くなって、前と比べて高いという感じがいたします。

<議 長>

- ・軽井沢・小諸間の増便実証運行も3年経過ということで、今年が最終年度になる訳ですが、ただ今年の場合には昨年まで付いていた国庫補助金が無いという中で、沿線の市や町そしてしなの鉄道が負担を増やしながらも継続するという形になっております。これは今までの議論の中で、これまでの2年という期間で評価を下すには早すぎるので、もう少し長い目で見て行く必要がある。ダイヤというのが地域に定着をして、それが増客に繋がるということを見極めるにはもうちょっと長い期間が必要であるということが一つと、利用者アンケートの中にも是非こういった取組を継続して欲しいという声があったことなどを踏まえて、我々の負担増にはなるけれども、継続しようということで一定の合意形成がされた訳です。こういった形で事業計画をさせていただいたのですが、これについてはどうでしょうか。

エ 軽井沢町としましては、小諸市さん、御代田町さんとも協議いたしまして、国の補助金が無くなったからといって、この事業を止めるつもりはないということで、3市町間で合議されておまして、また住民からも評判が良く、また軽井沢に来ている別荘の方、中軽井沢方面、追分方面の方々に、こういう風に便利になりましたという年に2回、別荘向けの広報をしましたところ、回数は大して利用しないのですが、是非このままやってくれという意見が多かったので、一緒に続けさせていただければ有り難いと思います。

オ 軽井沢町と同様で、私どもも継続してやっていきたいと考えています。

カ 私どもも同じ考えでして、小諸市もアニメの絡みで、小諸市が舞台となったアニメがヒットしたのですが、それを使って大分都心部から列車で来る方も増えています。そういうことも踏まえて継続してやっていく必要があると考えていますので、引き続きお願いしたいと思います。

キ 自治会上山田支部長の代理で来ました。現代は車社会になっていることは言うまでもありませんけれども、今長野県でも1人1台車を持っているような状況です。通勤・通学利用以外に、いかに電車を利用していただくかということが問題であるかと思う。活性化ということでもありますので、電車の車両に派手な凶案を企業とか、お店の宣伝とかで、宣伝料をいただいてやってみるとか、また、静岡県の大井川鉄道のように、長野・軽井沢間で2往復位 SL を走らせてはどうか。沿線の人にも多少の犠牲と問題が生じるかもしれませんが、観光資源・財政資源の観点から、沿線の皆さんにもご理解をいただいて、SL の車窓から北信濃の風景とか、浅間山とか誘客が期待できるように思います。また、戸倉駅をよく利用するが、戸倉駅の待合室内にウインドウがございます。そこに私どもがやっております大草鞋委員会によるわら細工を飾らせていただいております。わらの伝承とわらの美というものを長年にわたり展示させていただいております。地元上山田の八坂地籍に十一面観音智識寺という山門がございます。ここに今のわら細工、大草鞋を奉納させていただいているのですけれども、待合室でお客様の目を楽しませることができればということ参加させていただいております。大胆な企画をもって、お金を落としていかに来てもらうかということです。上山田も観光客が少なくなってきました。是非やれということでは無くて、思い切った企画もやってみてはどうだろうかということです。

<議 長>

・ありがとうございました。日頃そういうことに思いを巡らしていただくということは私どもにとっても非常に有り難い話で、是非アイデアをどんどん出していただければと思います。

増便の話に戻りますが、今年負担を増やしてでもやるということで、是非これを更に利用していただくことが必要になります。私どもとしても全力を尽くしてやりますけれども、是非自治体におかれても広報紙でPRするとか、過去十分にやっていただいているのですが、そういう面でのご協力も併せてお願いしたいと思います。

他になればこの関係についてはご了承をしていただけるということによろしいでしょうか。

(異議なし)

案のとおり一括して承認。

(平成24年度事業計画並びに予算 決定)

(6) 増客推進策について

事務局から「資料6」説明。

<議 長>

・増客推進策についてということなのですが、ご案内のように平成22年度の年間(輸送人員)一千万人という大台をついに割り込んだということを受けて、大変な危機感をもって昨年はいろいろ検討を重ねて参りました。その中の一つに若手社員中心の増客推進チームを作りまして、議論を重ね、作り上げた増客作戦となっております。これはすでに新聞などで発表をしておりますので、ご存知の方も多いと思いますけれども、従来考えてもいなかったような分野にも少し踏み込んで、とにかく思い切ったことをやっていかないと、中々こういった減少傾向に歯止めをかけることは難しいという認識の元、こういったものを打ち出した訳です。問題はこれをどうやって実行して効果を実際出していくかということなので、そういう意味ではこれからが正に正念場なのですが、とにかくできることは何でもやろうということで、決してこれに留まることなく、いろいろやっていこうと思っていますので、是非この協議会のメンバーにおかれても、先程からいろいろアイデアは出ていますが、私どももできることがあれば取り組むこともありますので、是非ご意見を頂戴できればと思います。

増客作戦では6本の柱を掲げておりますが、とにかくキーワードは、地域と連携をしていくということでございます。私ども事業者だけの努力では限界がありますので、是非とも地域の皆様のご協力を仰いで、一体となってやっていきたいと考えております。例えば③の「まちのステーションとしての駅の活性化」とありますが、駅を単なる乗降の場だけではなく、まさに文字どおりまちのステーションということで位置付け、地域と一体となって駅というものを盛り上げて行こうという趣旨です。例えば市町村においても、町づくりについて議論をすることがあるかと思うのですが、そういった際には是非町づくりの核の一つとして駅というものを位置付けていただいて、駅を中心とした町づくりというものを考えていただきたいという風に思っております。関連してローラー作戦で、事業所を訪問しますと、鉄道がレールの上しか走っていないという、一定の限界がネックであると感じます。それを補う意味で、二次交通との連携ですとか、駐車場確保ということが必要になります。とりわけ無料の駐車場を駅毎に用意して欲しいという声が多いのですが、残念ながら今のしなの鉄道の沿線の駅には、無料の駐車場というものはほとんど無く、駐車場があっても民間の駐車場で非常に高いので、利

用しにくいという声が非常に多い。これについて何とかしたいという風に思っております。そのひとつとして、例えば6か月以上の定期券を買っていただいた方には駐車場料金を割引するすとか、そんなことを考えているのですが、それと併せて、できれば無料の駐車場を駅周辺に可能なところは整備をしていきたいと思っておりますので、先程の町づくりの話とも関連するのですが、是非市町村において駐車場の確保というものができるのであれば、配慮をしていただけないだろうかと思っております。

⑤の「沿線地域等との連携」とありますが、しなの鉄道の沿線には観光地を含めて面白いところがたくさんあります。メジャーなところも多いのですが、決してメジャーでは無いのだけれども、行ってみると意外と面白い、こんなところもあったのかという話をよく聞きます。市町村の方からもこういう面白いところがあるんだよという話を聞きますので、それぞれの地域において、あまり有名ではないのだけれど、実はこういうところがあって、こんな面白いものがあるのだという情報をお寄せいただければ、私どもと一体となって是非それについて知恵を働かせて、ブラッシュアップをして、場合によっては一定のプランを作って、東京なり大都市のエージェントに商品として売り込んで、そういった方面からの送客を展開していきたいと考えております。これについては実はもう23年度から一部展開をしております、例えばJTB等に売り込んでおります。ただ、沿線にはまだまだポテンシャルがあって、面白いところが一杯あると思いますので、そういうことを地域として提供して欲しいと思います。

パルセイロとか、ブレイブウォリアーズとそこに書いてありますけど、今プロスポーツによる地域振興の動きがあり、プロスポーツ側にもできるだけ地域密着をしていきたいという志向がありますので、そういったところとも連携をして盛り上げ、私どもとしては増客につなげたい、地域としては盛り上げにつなげたいということで、いろいろな仕掛けを考えております。こういったことについても是非ご協力をお願いできればと思っております。

(質疑・意見等)

ク ローラー作戦を受け、1千万人を確保するための施策として、いいお取組をしていただいていると思っております。今年の事業計画にもありますようにしなの鉄道が主体になるものは相当盛り込まれて、動き始めているなあと感じているのですが、先程言われたように、地域との連携というところで、若干時間がかかるものがあるなあと感じて拝見しております。③の駅の活性化というところでは、中軽井沢駅の、複合施設化のように駅に人が集まるような施設整備をされている例もありますが、今ある施設でも、ここに例があるように、使い様によっては人が集まる機会というのはいっぱいできると思っています。是非今日は活性化協議会の皆さんですので、交通担当の部署に頼らずに町づくりをやってらっしゃると

ころだとか、観光を受け持ってらっしゃるところとかに是非広げて知恵を絞っていただければありがたいと思いましたが、地域代表の皆さんも今日はいらっしゃいますので、地区で考えていただくときにまさしくこんな話を話題にして、駅を楽しんでいただくような発想になっていただければありがたいなあと思いました。

⑤の隠れた資源という話があったのですが、隠れた資源をただ紹介するだけだとなかなか旅行会社は乗ってきてくれないと思うのですが、語り部とか、案内役の人が地域で付いていただくだけで非常に面白さがよく広がったりするわけで、旅行会社がしなの鉄道さんが売り込みに行ったときに、取り上げやすいような環境にあると思いますので、文章で終わらせずに、これをお持ち帰りいただいて、お取組をお願いできると広がりが出てきていいのかなあと思いました。

<議 長>

- ・ちょっとしたことで、大分状況は変わります。いろんな施設とか建物とか鉄道会社ですから車両もあるのでありますが、そういうものを全面的に取り換えなくても、ちょっとした付加価値を付けることで、そのものの価値というものが非常に違ってくることがありますので、そういうことも含めていろいろ工夫をしてみたいと思っていますので、面白いことがあればお寄せいただきたいと思っています。

(7) その他

「信濃町、飯綱町の本協議会へのオブザーバー参加について」(提案)

<事務局>

- ・本協議会にオブザーバーといたしまして、長野以北の自治体であります信濃町さん、飯綱町さんが参加していただくことについて提案をさせていただきます。平成26年度に予定されております、北陸新幹線の金沢延伸に伴いまして、長野以北の信越線、長野・妙高高原間の経営をしなの鉄道株式会社が引き受けることになりました。当社におきましては、全社を挙げて開業に向けた準備作業に取り組んで参りますが、今後の利用促進につきましては、沿線地域の皆様と一体となって取り組んでいく必要があると考えております。このため、長野以北の沿線自治体の皆様に本協議会にオブザーバーとして参加をしていただきまして、本協議会の活動状況等を参考にしていただくとともに、一体となりまして、利用促進に取り組んで参りたいと考えております。長野以北の沿線自治体のうち、長野市さんにつきましては、本協議会の構成員となっております。残りの信濃町さん、飯綱町さんにつきまして、10月に開催を予定しております、本年度第2回目の協議会から、オブザーバーとして参加をお願いすることを提案させていただくものでございます。

<議 長>

- ・長野以北の沿線の市町、長野市さんは別にして、具体的には信濃町さんと飯綱町さんに、本協議会のオブザーバーになっていただいたらどうかというご提案でございます、今の説明にもございましたけれども、長野以北の経営を正式に引き受けるということになりました。冒頭申し上げましたように、これからは以南・以北一体となってしなの鉄道活性化のために頑張っていかなければいけないという状況でございます。具体的な引継は3年ほど先になりますけれども、是非今のうちからこの一体感をもっていただいて、一緒になって取り組んでいただくことが必要かと思えます。今、以南の関係につきましては、非常に地域の皆さんにご理解とご協力をいただいているわけですが、以北についてもこれから利用促進などについては地域との連携というものがどうしても必要だと、そういう面でのちの以南の方が一生懸命やっていたというその姿・実情というものを肌で感じていただくという意味でも、オブザーバーとして参加していただくことは非常に意味があるのではないかと考えておりますので、是非ご理解をいただきたいと思えます。

(異議なし)

<議 長>

- ・御承認をいただいたということで、10月になります、次回から以北の飯綱町、信濃町にもオブザーバーとして参加をしていただくということになりました。ありがとうございました。

他に何かございますか。

ケ 今日の本題につきましては、協議事項いろいろご意見がありましたけれども、全く賛成でありまして、住民の足であり、訪れる観光客のためにも、更に充実して取り組んでいく必要があると思いつながら平成24年度も進めていただきたいと思います。

この協議会の席で申し上げるのが適切かどうかわかりませんが、新幹線延伸に係るその後の地域の在り方、特に鉄道利用の在り方を心配しております。商工会議所の組織としては、新幹線延伸対策特別委員会というものを設置してこれから具体的な内容を検討し、主に3点ほどその課題に挙げて取り組んでおります。1点は当然のことながら、延伸そのものの地域として課題をどういうふうにつえ、対応していくかということ。2つ目には地域の将来像を中長期計画の中での検討。そして3つ目にはこれが一番関係するのですが、地域交通との連携や利活用という3点に委員会では絞っています。一方、東北信の新幹線沿線の八つの商工会議所があるのでございますけれども、そこにおきましても、本年2月に新幹線沿線商工会議

所連絡協議会というものを立ち上げまして、延伸開業をチャンスとして捉えるという見方で、相互に連携をとっていこうということを確認しあっております。たまたま、長野県の方の組織改正を見ますと、新幹線・在来線企画室という形で、まさに我々もそういう形でなければいけないのではないかと、特に相乗効果をもたらすことが、この地域の経済の活性化にもなるし、地域振興にもなるということで、この協議会がそういう意味で今後どういう形で取り組んでいくか、先程の増客の推進策にもありましたけれども、この2～3年先を、実際に延伸営業される頃に、もう一つ焦点をあてて考える必要があるのではないかと、従って新幹線と言いますと、どうしてもこの沿線だけで見ますと、軽井沢、佐久平、上田、長野、飯山という圏内の各駅の乗降客の数にどうしても目が行ってしまいますけれども、しなの鉄道にとってのプラス面が逆に新幹線の延伸の中で出てくる要素もありますので、地域住民の足としての新幹線は非常に重要度を増していくと捉えています。ただそれは相乗効果のある形で、観光客対策と住民の足の対策と両方を組み合わせた形でないといけないのではないかと、先程8つの商工会議所と申し上げましたけれども、そこには中野も入っておりますし、須坂もあって、やや広域的にこの沿線の利用客を増やしていくという視点も必要ではないかと思ひまして、この協議会のテーマで挙げて、事業計画の中に盛り込むには早いかもしれませんが、次年度以降、場合によってはそういう事業計画の内容も1項目として、相乗効果をどうしたらもたらせるのかという入り方で協議していただければと思います。

<議 長>

- ・大変大事なお話かと思ひます。3年後に新幹線が開通したときに、しなの鉄道がどうなるのか、あるいはどういう戦略で臨むべきなのかということは、これから真剣に考えていかなければならないと考えています。新幹線の開通によってストロー効果といいますか、皆金沢に行ってしまうのではないかと、そういうことが一時的にはあるかもしれないけれども、中長期的に見た場合は必ずしもそうだとはいえ切れない要素がある。またそうしなければいけないと思ひます。そのためには私どもしなの鉄道に限って言えば、沿線には軽井沢をはじめブランド力のあるものもある訳なので、こういうものを活かし、ピンチだけではなくて、好機到来という捉え方もできると思ひます。それをどういう戦略でこれから確実にしていくかということかと思ひます。以北の問題もまさにそういう位置付けになる訳で、以北を新たに経営することは、うちの会社にとってはマイナスなのではないかという見方もかつてはあったのですが、必ずしもそうでは無くて、以南にはない要素というものが以北にはあるのであって、そういうものを取りこむうちの営業戦略に厚みというものができる訳です。それをどうやって活かしていくか、それは多分以北単独ではだめなので、地域を広域化した視点で、例えば新幹線が通る飯山駅と黒姫駅と、もっといえば、野沢とか志賀とを結んだゾーンの中で営

業戦略をどうやって作っていくか、またそういうことが可能になる訳ですからこれを是非チャンスとして捉えて、営業戦略を作っていかなければいけないと個人的には思っております。これをこの3年の間に確実に詰めて行きたいと考えております。

コ まさしく名前が変わったのは新幹線と並行在来線を含めた在来線の企画をしようという意図からこの4月から組織改正をさせていただきました。先程来出ているように、新幹線延伸を活用した経済活性化協議会というのは官民一体で、昨年12月に経済団体の皆さんと一緒に設立をさせていただいて取り組んでいるところですが、県のアンケート調査でも、北陸地方から東京に行きたいという声もあり、軽井沢を含めた長野に行ってみたいという要望が結構ありまして、そういう意味では、好機到来というポスターを今回作らせていただいたのですが、どうやって3年後以降、この地域の活性化につなげていくかを考える正念場だと考えています。観光面での取組をまずすべきなのですが、産業界でも、今まで無かった産官学の交流だとか企業同士の結びつきが出来たり、生活面でも金沢方面の大学に通ったり、逆にこっちに通ってもらったり通学の範囲なんかも広がってきます。観光に留まらずに、産業全般、生活、そういったところに変化が来ます。そこではしなの鉄道の活性化にとっても幅広く、観光以外の面も捉えて3年後以降をターゲットにこの協議会の中で取り組んで行っていただければいいのかなぁと思います。

「しなの鉄道開業15周年記念事業について」

<事務局>

- ・本年10月に開業15周年を迎えます。年間を通じてさまざまな記念事業実施していく予定です。(シンボルマーク、キャッチコピー、記念事業第一弾の紹介)

<議長>

- ・予定していた議題は以上になりますが、他に何かございますか。なければ時間が参りましたので、以上で活性化協議会を閉じたいと思います。ご協力ありがとうございました。

4 閉 会

以 上